

## 令和3年7月（第8回）教育委員会会議議事録

### 1. 開催の日時及び場所

令和3年7月20日（火）18:00～18:50

宇部市港町庁舎 3階会議室

### 2. 出席委員の氏名

野口 政吾 教育長

田村賢二郎 委員

山野あい子 委員

川崎 裕美 委員

重村 美帆 委員

### 3. その他議場に出席した者

上村教育部長、床本次長、橋本次長、伊藤総務課副課長、平山総務課副主幹、原学校教育課長、長谷川学校教育課長同格、國崎学校教育課係長、河村総務課係長

### 4. 傍聴者

なし

### 5. 趣 旨

教 育 長：ただ今から、令和3年7月20日の第8回教育委員会会議を開催いたします。

本日は、全員の委員の出席がありますので、会議として成立していることを最初に報告します。

また本日は傍聴の申し出はありませんでした。

教 育 長：次に、本日の会議録署名委員の指名についてですが、本日の会議録署名人は川崎委員にお願いします。

教 育 長：本日の議題は、「議案第21号 中学校教科用図書の採択について」の1件と、その他の事項として「上宇部中学校の地域貢献活動について」、「第2期宇部市教育振興基本計画検討委員会の開催の報告について」「寄付の報告について」の3件となっています。

教 育 長：「議案第21号 中学校教科用図書の採択について」は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、会議を公開しないこととしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（全委員異議なし）

教 育 長：異議が無いようですので、議案第21号については、非公開とさせていただきます。なお、それ以外の議題は、全て公開とさせていただきます。また、非公開とした議案第21号はその他の事項の「寄付の報告について」の審議が終わった後に協議を行うこととします。

教 育 長：議題に入る前に、6月議会が終了したことから6月議会の報告を事務局からお願いします

事 務 局：それでは令和3年6月議会の報告を行います。令和3年6月議会は6月7日に開会し、同月の24日までの18日間に渡り行われ、一般質問で21人の議員から質問があり、その内、教育委員会に対しては8人の議員から質問がありました。内容については配布した資料を参照してください。報告は以上です。

教 育 長： 議会報告については、これまでこのような形では行っていませんでしたが、本年度からは、教育委員の皆様にも、議会が終了後の翌月の教育委員会会議で報告を行うこととします。

教 育 長： それでは議題に入ります。その他の事項の「上宇部中学校の地域貢献活動について」、事務局から説明をお願いします。

事 務 局： 上宇部中学校の地域貢献活動について報告します。3月議会で、上宇部中学校の美術部による絵馬の奉納に関して、これは宗教的な活動ではないかという質問が出ました。この質問に対して、答弁では、上宇部中学校の絵馬の奉納については、上宇部中学校の学校運営協議会において、地域の方からの提案を受けて、始まったものであり、美術部の生徒に強制したものではなく、生徒が相談した結果、行っているものであるという回答をしています。これらのことから、教育委員会としては、学校での地域の連携による取組の一環であり、学校としての教育活動とは捉えていないと述べているところです。しかしながら、今回いただいた意見を受けて、教育委員会としては、今後、学校において、様々な活動を実施する際には、細心の注意を払うとともに、児童生徒や保護者、学校運営協議会とも十分協議を重ねた上で行っていくよう指導していくというふうに答弁をしています。そこで3月議会の後、上宇部中学校や上宇部中学校の学校運営協議会がどのような取組をしたのかということについて、この場でご報告をしたいというふうに思います。まず、3月議会において、本件に関する質問に答弁をしたその当日に、教育委員会の方で上宇部中学校に指導しました。この指導というのは、この活動が、この活動というのは、絵馬の奉納のことですが、学校と地域の連携による取組の一環であることが明確になるようにしてくださいという指導をしました。そこで、学校長が学校運営協議会会長と協議を行いました。この学校運営協議会会長は、上宇部地区の地域づくり協議会の会長を兼任している方です。この学校運営協議会会長と、校長との協議の中で、この活動は、地域主体の活動であるため、地域づくり協議会の中で、本活動の見直しについて協議していただくよう依頼することがよいであろうという話になりました。そこで地域づくり協議会の方で協議が行われ、その協議を踏まえ、学校長、それから学校運営協議会会長がさらに協議をして、今から申し上げるような、今後の実施方法を決定し、そして学校運営協議会に報告をしたということです。その今後の実施方法は、今から述べる三つの段階に分かれています。まず第1段階として、地域づくり協議会が、上宇部中学校の生徒に絵馬の制作のボランティア募集をします。これは大体7月の中旬くらいになると聞いています。その次の第2段階として、夏休み中に、この募集されたボランティア生徒により、絵馬の制作が行われます。そして完成したところで、第3段階として地域づくり協議会が、琴崎八幡宮で絵馬の奉納をする。こういう流れになります。このことを学校協議会の方で報告がなされております。以上で、本件に関しての報告は終わります。

教 育 長： ただ今の説明についてご意見ご質問はありませんか。

教 育 長： 特に、ご意見がないようですので次の議題に入ります。「第2期宇部市教育振

興基本計画検討委員会の開催の報告について」事務局から説明をお願いします。

事務局： それでは総務課から説明します。教育振興基本計画検討委員会についてですが、この委員会では、第2期教育振興基本計画策定にあたって教育委員会がこれから作成する個別施策事業の案についてご意見をいただき、実効性のある計画にするということを目的としています。第1回の検討委員会の開催に先立って、7月6日に委員に対して教育長から委嘱状の交付を行いました。また、検討委員会の委員は、11名で構成されていましてその委員の協議により、委員長と副委員長を決定し、その後第1回の協議に入りました。なお検討委員会は全4回の開催を予定しています。次に第1回の協議内容についてご説明します。第1回の検討委員会では、教育振興基本計画とはどのようなものか、そして、第2期基本計画策定にあたって検討委員会の委員に、どのような協議を行ってもらうかについて説明しました。また、平成28年の3月に改定した第1期教育振興基本計画の進捗状況について説明をしました。第1回の検討委員会ではこれらの説明を行い、委員の皆様には、各事業の進捗状況を詳細に説明した資料を配布し、後日、第1期計画と、新たに策定する第2期計画に対する意見を紙面に提出していただくこととなっています。第2回以降の検討委員会では各委員からいただいた意見と、教育委員会の方で作成する第2期計画の政策事業の案を、それぞれ資料として協議を進めていく予定としています。説明は以上になります。

教育長： ただ今の説明についてご意見ご質問はありませんか。

教育長： 5月の総合教育会議で教育委員の皆様には説明したとおり、現在事務局の方で、第2期の案を作成している段階です。今後、教育委員の皆様方にも、ある程度の案ができた段階で、意見伺うようになると思います。今回の報告は、検討委員会がスタートしたということでご理解いただきたいと思います。細かい内容についてはまた今後説明することになります。

教育長： それでは続きまして、その他事項の「寄付の報告」について事務局から説明をお願いします。

事務局： 引き続き総務課から6月分の寄付について報告します。6日9日に匿名の方から小中学校教育資金として3千円の寄付いただいております。こちらは平成24年度から通算で110回目となっています。また、6月17日には、山口県上下水道労働組合宇部支部から固形石鹼の寄付が千個ありました。こちらは、水環境保護の啓発及び新型コロナウイルス感染症対策として、小中学校にいただいたものです。

教育長： それでは、「議案第21号 中学校教科用図書の採択について」事務局から説明をお願いします。

事務局： 令和4年度使用中学校教科用図書、社会歴史的分野の採択替えについてお諮りをします。今回の採択替えつきましては、県の要綱に則りまして、採択替えを行うか否については、採択権者の判断によるということになっているためお諮りするものです。それでは、配布している資料に基づいて説明いたします。

事務局： 現在、宇部市で採択している東京書籍の教科書と新たに検定を合格した自由社の教科書の特徴について説明します。主な特徴ですが、自由社の教科書につ

いては、まず最初に編集の特徴について説明します。自由社の教科書は、すべての単元が見開きの2ページで構成されているというところが大きな特徴になっていると思います。二つ目の学習指導要領との関連につきましては、知識理解の観点において、基本的な用語が確認できるように工夫がされていること。また、学びに向かう力、人間性等の観点につきましては、コラムが豊富に掲載をされているというところが特徴になります。三つ目、指導上の便宜についてですが、教科書の大きさについてはともに同じ大きさになっています。最後その他についてですが、大きな特徴は、人物カードを作成する活動が自由社の方には取り入れられているということと、各草のまとめをする段階において、意見交換会というコーナーが設けられて、言語活動に関する学習を促しているというところがこの自由社の教科書の特徴になっています。以上です。

事務局： それでは先月の教育委員会会議で、教科書見本をお渡ししております。ただ今説明した選定資料の記述と、実際の教科書をご覧になった上での御意見、御感想などをお願いします。

委員： 編集の特徴の一番上に書いてある、「日本人は自らの歴史に自信と誇りを持ち」ということが、しっかりと出ているところが自由社の教科書の特徴なのかなと思います。教科書としては、コラムが充実しているところはすごくいいなと思います。また、外の目から見た日本という視点があることは日本人としてのアイデンティティーを確立するのにすごくいいのではと思います。日本という国は良い国で、ここに生まれ育っている自分たちは、幸せなんだと思う気持ちを育てるには、とてもいいのではないかと思います。とにかく、自己肯定感が低いと言われる日本人の原因の一つには、そういうところも多大に影響しているのではないかなと思いますので、自分の国を愛するという気持ちは、自分自身を愛するという気持ちに繋がっていくと思います。自由社の教科書はそういう気持ちを育むことができる内容になっていると思います。また、最後のページにある、世界各国の王朝の興亡一覧のところ、各国で様々な王朝が起こっては滅びていく中で、日本は昔から変わらずにあるというところもわかりやすく、自分の生まれた日本という国を愛することに繋がっていくと思います。ただ、内容についてちょっと偏ったところがあるように思います。ある意味、日本に欠けているところを提供できる教科書にはなっているとは思いますが、採択するかどうかといことになる、また話は別にはなりまして、そのあたりについて他の委員の皆さんのご意見を伺えればと思っています。以上です。

委員： 両社の教科書は共にそれぞれ日本の歴史について、子供たちにわかりやすくまとめられているなと思いましたが、私がいいなと思ったのはやはり東京書籍の教科書です。その理由ですが、教科書の最初に東京書籍の方は、持続可能な社会の実現に向けて歴史を学ぶということが、今と、それから未来に繋がっていくということを提示されているところが、SDGs 未来都市として、今の宇部市が進もうとしている方向性にすごく近い教科書だということを感じました。それともう一つは、ふりかえりのところは両方の教科書でも作られていますが、その中で私が個人的に気になったのが、自由社の方では様々な登場人物や出来事が時系列に並べてはありますが、いつ起こったことかということが私の見落

としでなければ、載っていませんでした。しかし、東京書籍の方では、ちゃんと西暦が載っていて、これから日本の歴史を学んだ後、世界の中の日本を見ていくわけで。世界史では何世紀頃のことが、日本ではどうだったかっていうことをきちんと把握しておくことは、歴史を学ぶ上ではとても重要だと思っておりますが、その点が自由社の方にはないことが、私の中で大事にしたいポイントがないように思われましたので、何世紀にどういう出来事があったかということを中心に明記されている東京書籍の方がいいなと思いました。

委員：自由社の方は、コラムがたくさんあって読み物としてはすごく面白いなと思いましたが、やはり他の委員が言われたように、何となく偏ってるというか、言葉では表現しづらいのですが、ただ歴史を学ぶという感じではなく、人として考えさせられるようなところが多いなと思いました。前回、東京書籍の教科書を選んだときに、まとめの活動のところのクラゲチャートなどの多様な思考ツールを子供たちに学んで欲しいと思っていて、そういうことを歴史を通じて、使い方を学べるというところが、東京書籍を選んだ理由だったのですが、自由社の教科書にはそこが足りないと感じました。

委員：自由社の方は、歴史を学ぶということを、過去に起こったことに関して、その時代の人々がどう考えてどう悩みどのように解決していったかということを知って、それを自分のこととして想像して自分の言葉で考えてみるという、「歴史を学ぶ」というように書いてあるように思いました。一方で東京書籍の方は、なぜ歴史を学ぶのかということについて、私達の未来を考えるために、歴史を学ぶ必要があると書いてありまして、SDGsのことが書いてありましたが、自由社の方ではSDGsのことは書いてありませんでした。あと自由社の方で良いなと思ったところは、自由社の教科書には「禁門の変」が書いてあったことです。第一次長州征伐、第二次長州征伐のこともきちんと書いてあり、2度目にどうして長州が勝ったのだらうと考えてみましょうということも書いてありました。その点は、現在山口県に住んでいる者として魅かれる部分でした。しかし、広島県出身者としては、原爆投下に関しては東京書籍の方は、広島のことと長崎のことが、写真でも文字でも書いてありますが、自由社の方は、長崎については写真が全然載ってなく、文章だけしか載っていないのが不思議な感じがしました。私としては、東京書籍の方が中学生が学ぶのにはいいのではないかなと考えました。しかし、実際に今東京書籍の教科書を使ってみて、現場の社会科の先生方の意見を聞いてみたいと思っています。

教育長：自由社の教科書も検定に合格したわけですから内容については問題ないと思います。編集のスタンスとして、我が国の歴史と文化を大切にする、そして、日本人としての誇りを持たせるという、これは前回の学習指導要領から、また国の施策としても、打ち出されたものですので、その色合いが非常に濃いと思います。東京書籍は、その色合いだけでなく、今、新しい学習指導要領で必要な、例えば探究であるとか、思考判断、また、知識をどう活用していくか、問題解決的な学習をどう構成していくかという点が非常に色濃く出ています。ですから我々も昨年度採択したところですが、自由社の強化については残念ですがそれが少し弱い部分があるのではないかと感じました。読み物としては面白い

のですが、歴史を学ぶという視点だけではなく、歴史から学ぶという、そういう視点で考えると東京書籍の方がいいのかなと思いました。

事務局：ありがとうございました。それでは、今委員の方の意見をお聞きしますと、それぞれの教科書に良いところがあり、また、それぞれの教科書の編集の方針が違うということがありつつも、やはり中学校で学ぶ教科書としては、東京書籍の『新しい社会歴史』の方が良いのではないかという意見だったのではないかと思います。そこで、令和2年度の使用中学校教科用図書、社会歴史的分野については、東京書籍の『新しい社会歴史』として、採択替えは行わないということよろしいでしょうか。

(全委員異議なし)

教育長：議題については以上ですが、他に何かありますか。

(全員意見なし)

教育長：以上をもちまして、本日の会議を終了します。